

---

# 明日への一步

純

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

明日への一歩

### 【Nコード】

N6026Q

### 【作者名】

純

### 【あらすじ】

知らない女性と歩いていた彼氏

その彼氏との終わりまでの時間

**(前書き)**

浮気の実績があります。

苦手な方はご注意ください。

頬を伝う、その涙がきれいで…。

それは偶然だった。

友人と街を歩いていると、見たことがある服装の人が歩いていた。よくよく見てみるとそれは付き合って2年になる彼氏。

その隣には知らない女性がいる。

信じたくなかった。

でも手をつないで歩いている（それも恋人繋ぎ）ってことは決定的だ。

友人もそれに気づいたのか、私に尋ねてきた。

「ねえ、あれって瞬君じゃない。」

「そうだよねえ。私もそう見える。」

「………なんと言っていいの？」

「いや、何も言っな。」

ひとまずこの場を離れていいかな。」

「うん。でも修羅場って来なくていいの？」

「………」

春香は何も言えなかった。

それからカフェに入りカフェオレを飲んで少し落ち着いてくる。それと共に怒りと失望感が湧いてくる。

「うん、別れる。」

「いきなりなにかと思えば。」

でも、それでいいの？」

「いい。だってもう気持ち悪い。」

知らない女を触ったのに触られたくない。」

春香はそう言うと携帯を取り出した。

携帯を少しいじると鞆にしまい、カフェオレを飲み始める。

それに疑問に思い問いかけた。

「何をしたの？」

「別れようメールを送った。」

これで心置きなく付き合っていけるでしょ。」

友人がなにか言おうと口を開きかけた時、春香の携帯が鳴った。けどそれを取ろうとはしない。

「とらなくていいの？」

「瞬からだから。」

今話したら真剣に罵倒して貶しそうだから。」

「しちゃえばいいのに。」

春香は小さく笑い、携帯を取り出しメールを打ち始めた。

「これでよし。あと2時間後に話しあいの場を設けました。」

後のことはもう知らない。来なければこれで終わり。」

「ん、がんばってきな。」

「ありがとう。」

春香は友人に約束の時間まで付き合ってもらい

約束の時間に待ち合わせ場所で瞬を待っていた。

時間通りに来た瞬は飲み物を頼み春香の前に座った。

そして開口一番に怒りをぶつけてきた。

「なに、あのメール。」

「そのままだよ。別れて欲しいから送った。」

怖い顔をして問い詰めてくる瞬に対して、春香は冷静だった。

「なにそれ、説明しろよ。」

「……………私ってちょっと潔癖症なんだよね。」

だから、誰かが触ったものって嫌なんだ。」

「今はそんな話してないだろ。」

理由を言えよ。」

「じゃあ、はつきり言っけど、浮気するぐらいなら別れてからにしてくれない？」

瞬ははつきりと刺されたような顔をした。

「浮気なんて、」

「してるよね？」

さつき一緒に歩いてたでしょ。」

瞬は言う言葉が見つからないのか青ざめた顔で黙っている。

「私、彼氏を誰かと共有するとかできないんだ。」

それに知らない人を触ったあなたと触れあうとかできない。」

「あれは、あれはあつちから誘われたんだ。」

本気じゃないから！」

「だから？本気じゃないからって付き合ってる人がいても

他の人と付き合ってるの？

……………バカじゃないの？」

春香はこれ以上意味がないと思ったのか紅茶を飲みほした。そしてカップを置き話だす。

「昔、付き合う時に浮気は許せないって言ってあったよね。」

だからもう、終わりにしよう。」

下を向いている瞬をそのままに春香は荷物を手に取り席を立った。

「今までありがとう。」

その言葉に顔を上げた瞬は、春香の顔をみた瞬間すべてを悟った。頬を流れるそれをそのままに、ほほ笑む春香は強い決意を表していた。

そしてその顔は…

瞬との話を終え、店を出た春香は涙をぬぐい前を見て歩きだした。少しの寂しさを持って。

(後書き)

大変拙いお話ですみません。

強い女の子を書きたくて書きました。

ありきたりかもですが、楽しんでもらえたら嬉しいです。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6026q/>

---

明日への一步

2011年3月21日04時49分発行